

新潟市アグリパーク要求水準・目標値(評価指標)

視 点	評価項目	令和5年度 評価指標	令和5年度実績	評価	コメント
	入場者数	最終年度(R9)までに19万人以上/年 ※令和5年度目標 170,000人	195,562人	A	指標を上回った。
		宿泊施設の稼働率 : 最終年度(R9)までに30%以上 ※令和5年度目標 26%以上/年	35.5%	A	指標を上回った。
	食育の推進	教育ファームカリキュラムの受講者 : 最終年度(R9)までに24,000人以上/年 ※令和5年度目標 22,000人	26,836人	A	指標を上回った。
	就農支援	体験イベント及び就農支援プログラムの受講者 : 最終年度(R9)までに800人以上 ※令和5年度目標 760人	998人	A	指標を上回った。
	6次産業の推進	・食品加工室利用回数 : 400回以上/年 ・食品加工室利用人数 : 1,000人以上/年	・利用回数: 423回 ・利用人数: 1,124人	A	指標を上回った。
	広報の充実	・HPの情報更新 : 240回以上/年 ・SNSによる発信 : 360回以上/年	・HPの情報更新: 419回 ・SNSによる発信: 408回	A	指標を上回った。
	利用者の満足度	利用者アンケートで「満足」が85%以上	96.0%	A	指標を上回った。
財 務	適正な財政運営	収支計画に基づく収入の確保及び費用の執行	指定管理収支が黒字	B	指定管理収支が黒字。
		利用者ニーズを踏まえた開館日数・開館時間等の設定による効率的な運営	適正に実施	B	指標のとおり。
	適正な財務管理		適正に実施	B	指標のとおり。
業 務	安心・安全の確保	・防災訓練: 年2回以上実施 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアルの作成	・防災訓練: 2回 ・防災マニュアル及び安全管理マニュアル作成済	B	指標のとおり。
	コンプライアンスの徹底	職員へのコンプライアンス研修受講 : 1回以上/年	1回	B	指標のとおり。
	市内産業の貢献	・再委託する場合の市内事業者への再委託及び資材等の市内事業者(店舗)等からの調達率 : 90%以上	100%	A	指標を上回った。
	市民協働の推進	ボランティアの受入れ : 延べ1,000人/年以上	1,110人	A	指標を上回った。
	社会貢献	施設内の各種作業についての障がい者の受付 : 延べ50人/年以上	0人	C	指標を大きく下回った。
人 材	労働基準の充足	労働関係法令の遵守	適正に実施	B	指標のとおり。
	業務の理解度と習得度	職員の業務研修 : 1人あたり2回以上/年	4.7回/年	A	指標を上回った。
	市内雇用の貢献度	市内住居者の雇用率 : 90%以上	90.9%	B	指標を上回った。
指定管理者記載欄(アピールしたい事項・未達成項目への改善策等)					
令和5年度の総入場者数は191,491人(宿泊込み195,562人)となった。新型コロナの5類感染症移行に伴い人の動きが活発化したことや、年末感謝祭など大規模イベントの復活と月次イベントの拡充に伴い各種体験利用者および宿泊者が増加した。 教育ファーム関係では、学校は延べ176校、8,360人が来園した。前年度と比較して、利用学校は5校(379人)増加した。小学校の利用割合が最も高く、全体の76%を占めている。その他の学校種別では幼・保園の14%、中学校の6%、特別支援学校の3%であり、学年別では小学校2年生の54%が最も多い。参加した学校の評価と満足度は引き続き高く、アンケートでは100%の学校から「農業体験学習のねらいは達成できた」という評価を得た。一般利用者が行った体験は、多い順に「餌やり」「野菜収穫」「搾乳」であったが、季節の農産物や地域の特色と絡めた体験イベントの満足度が高かった。今後の課題として、学校関連ではSDGsを関連付けたキャンプサイトの活用と新型米粉製粉機の導入に伴う米粉プログラムの改善など、また一般向け体験においてはキャンプサイトの有効活用と農園等周辺施設や地域との連携企画の展開について、アグリパークならではの利点を活かして実現に取り組みたい。 食品加工支援業務関係では、食品加工の基礎を学ぶための講座を59回開催し延べ404人が受講した。また講座以外の加工室利用は延べ364回720人が利用したが、講座回数・受講者数は前年比2割増加した一方、加工室利用者数は猛暑が長引き農産物収穫量が少なかった影響で1割増に止まった。なお加工室利用者の職業は65%が農業関係者であったが、猛暑による原材料不足で生産者の加工機会が減り学生の利用割合が増えた。商品化された製品が12品、一次加工品が1品、デザイン作成が8品、加工技術相談の回数は123回であった。今後も地元農産物を使用した商品の新規開発支援のためJAや教育機関等と連携を図るとともに、新型米粉製粉機による微細製粉の利用拡大と米粉加工技術の展開について可能性を探るなど6次産業化支援に努めていきたい。 就農支援事業では、常設の就農相談窓口に相談が13名(新規就農2名、就農希望9名、農業法人2名)からあった。就農体験研修には、野菜栽培コース6名、果樹栽培コース4名が受講した。また新規就農者から体験を語っていただく「新規就農者応援シンポジウム」を開催し就農希望者など35名が参加したほか、経営管理力の育成を目的とした農業経営研修には新規就農者など24名が参加した。規模拡大など経営に関することや農業法人の設立と求人等、相談内容が多様化しており、県や市(農業活性化研究センターほか)及びJAとの情報共有と連携強化が一層重要となっている。 施設の特色を生かした体験イベントをほぼ毎月開催したが、特に「周年祭(5月)」「お米祭り(9月)」「収穫祭(10月)」「ふるさと祭り(1月)」を大イベントと位置付け、体験と美味しさを通して農業の理解を深め郷土愛を育む内容を基本に実施して好評であった。広報の充実では、紙媒体のほかホームページやSNSにより積極的な情報発信に努めるとともに、幅広い年齢層への周知浸透を図るため前広にプレスリリースを行うことによりテレビ各局や新聞等で複数回報道され集客にも繋がった。次年度においても、直売所やレストランとは元より南区観光農園等との地域連携をより強化して各種施策を積極的に展開していくとともに、より市民に近く親しみやすい体験施設を目指した運営を行い、利用者数の安定的増大とともに、農業振興と地域の活性化などの機能発揮に努めるものとする。					
所管課による総合評価(所見)					
アグリパークの設置目的及び事業計画書に基づいた適切な管理運営が行われている。 令和5年度は大規模イベントを復活させるだけでなく、テレビやSNS等、様々な媒体を活用して情報発信に努め、コロナ禍前の令和元年度を上回る過去最多の入場者数となった。宿泊施設の稼働率は35.5%、来場者満足度も96.0%と指標を大きく上回るなど、職員の日々の接遇や創意工夫が数多くの指標達成につながったものと考えられ、高く評価する。食品加工支援業務については、講座受講者数、加工室利用者数ともに昨年度から増加し、指標を達成した。また、猛暑の影響で農業関係者の利用が伸び悩んだ一方で、学生の利用割合が増えるなど、利用者の広がりも見られた。就農支援プログラム受講者数についても前年度より上昇し、最終目標の達成に至った。 令和5年度から新たな指定管理期間となった。新たな取り組みとなるキャンプサイトの運営や、SDGs学習への支援に関しては、アグリパークの各部門が一体となり、食と花の推進課及び学校や農業関係者との連携を深めながら、積極的に推進していただくことを期待する。 複数の新聞やテレビで取り上げられるなど、これまでの取り組みの積み重ねが施設の知名度を高め、市内外へ本市の食と農の魅力発信につながっている。引き続き多くの方に満足いただける施設となるよう取り組んでいただきたい。					